



# ヤマメ育て身近な自然の貴重さ学ぶ

みどり・あずま小(新井) 博介校長、47人

みどりの市立あずま小学校(東町神戸)周辺は、湖や川、山など自然環境に恵まれています。

を開きました。\*

近くの川には、水がきれいなどここにすむ魚として知られるヤマメの姿も見られます。校内ではヤマメの発眼卵をふ化させ、稚魚を飼育しています。身近な存在であるヤマメをよく知るところで環境への関心を高めようと、昨年12月にヤマメの学習会

講師は、自然やヤマメに詳しいチャウス自然体験学校の加藤正幸さんと、両毛漁業協同組合長の中島淳志さん。まずは、クイズを通して楽しみながらヤマメや清流にすむ魚についての知識を深めました。次に、同校の近くを流れる川で撮影したというヤマメの動画を見ました。続いて中島さんが、ウグイやイwanaなど12種類の魚のパネルを広げ「このすべての魚が近くの渡良瀬川にいます」と話すと、児童が驚きの声があがりました。自分たちの住んでいる場所が、たくさんの命を育む貴重な環境であることをあらためて知り、児童たちの顔が輝きました。

ているヤマメを観察し、写真、県水産試験場の小林保博さんから、飼育のコツを教わりました。また加藤さんからは、3月の放流まで1週間に1度の割合で詳しくヤマメを観察できるノートがプレゼントされました。

森田温斗君(4年)は「学校の近くの川で実際に産卵していると知ってびっくりした。ヤマメが安心してすめるよう川をきれいにしたいです」と興奮気味に話してくれました。

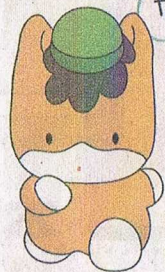
※平成27年度環境省 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業(ESD)の一環として行われています。

最後に玄関先で飼育した。



最後に玄関先で飼育した。

春にたくさんのヤマメを放流できるといいね



群馬県のマスコット「くんまちゃん」 許諾第26-111860号